

文化・芸術

「海」

恩地孝四郎 (1891~1955年)

1937年、木版・紙
88・5枚×51・5枚

自画、自刻、自摺(じずり)による創作版画の立役者であり、日本における抽象美術の先駆者として知られる恩地孝四郎。1930年代は、他分野への接近の中で多彩な活動を展開しました。本作はその時代の代表作。もとは3点組みで、海の生物を描いた方形の2点がはさむ構成でした。要となるのがこの大作です。ふたりの裸婦を対比させた斬新な構図、濃密な色彩が圧倒的です。

マルチタレントとして知られた版画家・池田満寿夫は68年ごろ、米国ロサンゼルスで100点におよぶ恩地の版画を見る機会を得ました。本作について後年次のように記しています。

「一作者の温かなまなざしが画面全体をやさしく抱擁しているようである。一全体の雰囲気は具象的な形態と抽象的な空間とが巧妙なバランスを保ち、一見童話風な雰囲気の中に、あたかも屏風絵を思わせる伝統的な装飾空間を創造している」

(小此木)

《名画の扉》

大川美術館特集展示「コレクション
による日本の木版画」から

